

第802回: 逼上梁山

中華人民共和国を建国した毛沢東主席(1893-1976)が「水滸伝」や「三国志演義」の愛読者であったことはよく知られている。その毛沢東も晩年になるとヤキが廻ったらしく、江青らの策略にのせられ75年8月から全国的規模で「水滸伝」を反面教材として、主人公(宋江や盧俊義ら)が最後は宋朝に帰順した修正主義、投降主義を徹底的に批判する「水滸伝批判運動」を開始した。当時の人民日報は「水滸伝批判運動」を政治思想戦線の重要な闘争と評価したが、四人組らの真の狙いは、林彪失脚事件以降、影響力を拡大してきた周恩来首相や鄧小平など古参幹部の打倒にあったようだ。

その毛沢東が元気だった頃の70年12月、主席は古くからの友人である米国人ジャーナリストのエドガー・スノーと北京で再会した。中国紅軍が国民党から逃げ回り、最終的に国民党が追撃を半ば諦めたほど地の果ての延安(陝西省)に蒙塵していた30年代のこと。スノーは共産党シンパの宋慶齡から紹介状をもらい、現地に飛び、毛沢東、周恩来、朱徳など多数の指導者に取材を行い、世界的ベストセラー「中国の赤い星(Red Star over China)」を著した。スノーにとって70年12月の訪中は最期の中国の旅となったが、毛沢東はスノー夫妻を温かく迎え入れ、ひとときの交歓に及んだ。

別れ際に毛沢東は、自分のことを「和尚打傘(ホーシャン・ダーサン)」だと述べた。中国語に直訳すると、「坊主が傘を差す」。スキンヘッドの坊主が傘を差せば空も隠れるので「無髪無天(ウーファ・ウーティエン)」となる、そして「無髪無天」が同発音の「無法無天」に転換され「オレはならず者、オレには法律もお天道さまも通じない」となる。一種の地口だ。

このとき主席の通訳をつとめたのが当時27歳の帰国華僑・唐聞生(Nancy Tang)だった。ナンシー・タンは毛沢東専属の翻訳官として、数年後にニクソン大統領やキッシンジャー補佐官などの通訳をつとめた斯界のプロだが、少女時代をブルックリンで暮らしたせいもあって中国の歴史や故事に疎く、毛沢東が連発する中国のダジャレが理解できなかった。

だから彼女は毛沢東が云うとおり、「私は傘をさす僧侶だ」とそのまま英訳し、これを聞いたスノーもそのまま理解し、よせばいいのに著書では下手な文学的表現を加え、思い入れたっぷりに、「I am a lonely monk walking in the rain under a leaking umbrella.=私は破れ傘を手にした孤独な修行僧にすぎない」などとやってしまい、世界の大手メディアも、それを信じ込んでしまった。

だからライフ誌を読んだ世界の読者は、「毛沢東とはスターリンのように赤い帝国の黒い独裁者とばかり思っていたが、彼が無人の荒野を彷徨する修行僧のように孤独だったとは知らなんだ」と誤解してしまった。日本語版ウィキペディアによると、76年9月9日に毛沢東が逝去したとき、朝日新聞の「天声人語」(9月11日)は「晩年の(毛沢東)主席がスノー氏に『自分は破れがさを片手に歩む孤独な修道僧にすぎない』ともらした言葉は、この不世出の革命家の内面を知る上で実に印象的だ」と間の抜けたことを書いている。

毛沢東の「和尚打傘」発言には若いころ、とくに「井崗山時代」の革命運動の経験が重なっているようだ。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

27年、蒋介石が発動した軍閥打倒運動「北伐」に呼応し、第三次上海暴動を引き起こした武装労働者らが、国民党軍の武装解除令に従わず抵抗したため、国民党が国民党左派や共産党系労組の解散を命じ、武力弾圧を強行した。これによって、「国共合作」は破綻し、共産党勢力は蜘蛛の子を散らすように、(周恩来のように)地下に潜伏したり、(毛沢東のように)奥地に逃亡したりすることになった。

共産党勢力、つまり紅軍は地方へ逃亡する途上で地方政府を襲撃する暴動を企て、「国民党革命軍」の名で「南昌蜂起」や「秋収蜂起」などの騒動を引き起こした。一連の暴動は国民党軍によってあっという間に弾圧され、毛沢東は千人程度の敗残兵を連れ、生まれ故郷湖南省の山岳地帯「井崗山」に逃げ込むことになるのだが、このとき毛沢東が井崗山を乗っ取った手口は彼の愛読書・水滸伝から習ったに違いない。

水滸伝で英雄豪傑たちが立てこもる「梁山泊」は、もともと王倫という科挙の落第生くずれのケチな盗賊が支配していたが、ここに政府軍に追われた晁蓋、呉用、林冲などが押し寄せ、仲間入りを申し出る。ところが王倫は相手をはるかに格上なのに怖れをなし、餞別金を渡した上で、「もっと大きな山寨をお探し下さい」と謝絶するのだが、林冲らが強引に居座り、王倫を殺して梁山泊を乗っ取る。

それから800年、秋収蜂起を指導した毛沢東は国民党軍の返り討ちに遭い、這う這うの体で山岳地帯に逃げ込むが、この地には袁文才、王佐をかしらとする「地痞流氓(ディーピー・リュウマン)」、つまり農村地帯の地回りのような集団が山寨を築き、井崗山を縄張りにしていて、毛沢東はここに挨拶に行き、ぜひとも仲間入りしたいと懇願したが、恐れをなした袁・王は「餞別金を差し上げるので別の場所をお探してください」と断るが、そうこうする内に朱徳や彭徳懐など、こわもての紅軍が続々流れ込み、井崗山は毛一派に乗っ取られ、袁王両者は後に「AB団事件」、「富田事件」など不可解な事件に連座し、共産党によって処刑されてしまう。

そんなわけで毛沢東は紅軍を「逼上梁山(やむにやまれず法を犯し、梁山泊に集まった)」水滸伝の豪傑たちに譬え、彼はここから政治闘争の知恵まで学んだようだ。

因みに南昌・秋収などの「事件」は、共産党側から見れば「起義」であり、国民党政府から見れば、盗賊による「暴動」であり、日本ではあいだをとって「蜂起」とし南昌蜂起、秋収蜂起と呼んでいるが、27年8月3日に共産党中央が発出した公式文書は「中央関于湘鄂粵贛四省農民秋収暴動大綱(湖南・湖北・江西・広東省四省の秋収暴動大綱)」とあり、当時の中共は「暴動をやる」と断言している、ご参考まで。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

2024年(令和6年)5月7日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

外国証券等について

・外国証券等は、日本国内の取引所に上場されている銘柄や日本国内で募集または売出しがあった銘柄等の場合を除き、日本国の金融商品取引法に基づく企業内容等の開示が行われておりません。

手数料等およびリスクについて

①国内株式等の手数料等およびリスクについて

・国内株式等の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2650% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 1.2650% (税込み) に相当する額が 3,300 円 (税込み) に満たない場合は 3,300 円 (税込み)、売却約定代金が 3,300 円未満の場合は別途、当社が定めた方法により算出した金額をお支払いいただきます。国内株式等を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式等は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②外国株式等の手数料等およびリスクについて

・委託取引については、売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額)に対して最大 1.1000% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・国内店頭取引については、お客さまに提示する売り・買い店頭取引価格は、直近の外国金融商品市場等における取引価格等を基準に合理的かつ適正な方法で基準価格を算出し、基準価格と売り・買い店頭取引価格との差がそれぞれ原則として 2.50% となるように設定したものです。

・外国株式等は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

③債券の手数料等およびリスクについて

・非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスクおよび為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

④投資信託の手数料等およびリスクについて

・投資信託のお取引にあたっては、申込(一部の投資信託は換金)手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

⑤株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

・株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0880% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.400% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 4.400% (税込み) に相当する額が 2,750 円 (税込み) に満たない場合は 2,750 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をご覧ください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3